

令和7年度 全国学力・学習状況調査の結果について

村上市教育委員会

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査の対象

小学校第6学年、中学校第3学年

3 調査内容

(1) 教科に関する調査（R7は国語、算数・数学、理科） ※中学校理科はオンライン方式（CBT）

ア 出題内容

- ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能 等
 - ② 知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力 等
- 調査問題では、上記①と②を一体的に問う。

(2) 質問調査

ア 児童生徒に対する調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

イ 学校に対する調査

指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査

4 結果

(1) 平均正答率

〈令和5年度〉	小 学 校			中 学 校			
	国語	算数	理科	国語	数学	英語	理科
村 上 市	67	61	—	68	45	38	—
新 潟 県	67	62	—	70	49	41	—
全国（公立）	67.2	62.5	—	69.8	51.0	45.6	—

〈令和6年度〉	小 学 校			中 学 校			
	国語	算数	理科	国語	数学	英語	理科
村 上 市	68	60	—	51	43	—	—
新 潟 県	67	61	—	57	50	—	—
全国（公立）	67.7	63.4	—	58.1	52.5	—	—

〈令和7年度〉	小 学 校			中 学 校			
	国語	算数	理科	国語	数学	英語	理科 (平均IRTスコア)
村 上 市	65	55	54	50	39	—	475
新 潟 県	66	56	55	54	46	—	498
全国（公立）	66.8	58.0	57.1	54.3	48.3	—	503

※ 中学校理科の「平均IRTスコア」とは、異なる問題から構成される調査結果の正誤パターンを基に児童生徒の学力を推定し、500を基準にした得点を市の結果として平均化したもの。

ア 小学校

① 国語

- ・市の平均正答率は、全国を下回った。
- ・正答数分布は、全国と比べて上位層が少なく、下位層は全国並みであった。
- ・学習指導要領の内容別では、知識及び技能における「情報の扱い方に関する事項」「我が国の言語文化に関する事項」、思考力・判断力・表現力等における「話すこと・聞くこと」「読むこと」が全国を下回った。
- ・問題形式別では、「選択式」「短答式」「記述式」のすべてが全国を下回った。
- ・問題別では、ほとんどの問題で全国を下回った。特に、文章全体の構成を捉えて要旨を把握することができるかをみる問題、必要な情報を見付けることができるかをみる問題、伝え合う内容を検討することができるかをみる問題等で課題が見られた。

② 算数

- ・市の平均正答率は、全国を下回った。
- ・正答数分布は、全国と比べて上位層が少なく、下位層が多かった。
- ・学習指導要領の領域別では、「数と計算」「図形」「変化と関係」「データの活用」のすべてが全国を下回った。
- ・問題形式別では、「選択式」「短答式」「記述式」のすべてが全国を下回った。
- ・問題別では、ほとんどの問題で全国を下回った。特に、はかりの目盛りを読むことができるかをみる問題、コンパスを用いて平行四辺形を作図できるかをみる問題、小数の加法について共通する単位を捉えることができるかをみる問題等で課題が見られた。

③ 理科

- ・市の平均正答率は、全国を下回った。
- ・正答数分布は、全国と比べて上位層が少なく、下位層が多かった。
- ・学習指導要領の領域別では、A区分「エネルギー」「粒子」、B区分「生命」「地球」のすべてが全国を下回った。
- ・問題形式別では、「選択式」「短答式」で全国を下回り、「記述式」は上回った。
- ・問題別では、ほとんどの問題で全国を下回った。特に、直列つなぎに関する知識が身に付いているかをみる問題、温度によって水の状態が変化するという知識を基に、概念的に理解しているかをみる問題、顕微鏡を操作し、適切な像にするための技能が身に付いているかをみる問題、実験の条件を制御した解決の方法を発想し、表現することができるかをみる問題等で課題が見られた。

イ 中学校

① 国語

- ・市の平均正答率は、全国を下回った。
- ・正答数分布は、全国と比べて上位層が少なく、下位層が多かった。
- ・学習指導要領の領域別では、知識及び技能、思考力・判断力・表現力等ともに全国を下回った。特に思考力・判断力・表現力等における「話すこと・聞くこと」「読むこと」に全国との大きな差が見られた。
- ・問題形式別では、「選択式」「短答式」「記述式」のすべてが全国を下回った。
- ・問題別では、すべての問題が全国を下回った。特に、自分の考えが明確になるように、話の構成を工夫することができるかをみる問題、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫することができるかをみる問題、文章の構成や展開について、根拠を明確にして考えることができるかをみる問題等に全国との大きな差が見られた。すべての問題で無答率が全国を上回っており、その中でも「記述式」が高い傾向にあった。

② 数学

- ・市の平均正答率は、全国を下回った。
- ・正答数分布は、全国と比べて上位層が少なく、下位層が多かった。
- ・学習指導要領の領域別では、「数と計算」「図形」「関数」「データの活用」のすべてが全国を下回った。その中でも、「図形」は、全国との大きな差が見られた。
- ・問題形式別では、「選択式」「短答式」「記述式」のすべてが全国を下回った。その中でも、「短答式」「記述式」で全国との大きな差が見られた。
- ・問題別では、すべての問題で全国を下回った。特に、式を変形したり、その意味を読み取

ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することができるかをみる問題、証明を評価・改善することができるかをみる問題、多角形の外角の意味を理解しているかをみる問題、事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができるかをみる問題等に全国との大きな差が見られた。すべての問題で無答率が全国よりも高く、その中でも「記述式」が高い傾向にあった。

③ 理科

- ・ 市の平均正答率は、全国を下回った。
- ・ 正答数分布は、全国と比べて上位層が少なく、下位層が多かった。
- ・ 問題別では、実験の様子と、密度に関する知識及び技能を関連付けて、それぞれの気体の密度の大小関係を分析して解釈できるかをみる問題、小腸の柔毛、肺の肺胞、根毛に共通する構造について多面的、総合的に分析して解釈することができるかをみる問題、植物の茎の断面や根の構造について適切に表現できるかをみる問題、スケッチに関する知識及び技能が身に付いているかをみる問題等で課題が見られた。

※ 中学校理科はオンライン方式による実施で生徒間や実施日の異なる学校間で設問が異なるため、学習指導要領の領域別、問題形式別の全体的な結果は提供されていない。

課題1 資質・能力を確実に育成するための授業改善

(2) 学校別平均正答率

ア 小学校

- ・ 国語の平均正答率で全国を上回ったのは、13校中6校だった。
- ・ 国語における平均正答率の最大学校間差は、23ポイントだった。
- ・ 算数の平均正答率で全国を上回ったのは、13校中3校だった。
- ・ 算数における平均正答率の最大学校間差は、32ポイントだった。
- ・ 理科の平均正答率で全国を上回ったのは、13校中5校だった。
- ・ 理科における平均正答率の最大学校間差は、23ポイントだった。

イ 中学校

- ・ 国語の平均正答率で全国を上回ったのは、7校中2校だった。
- ・ 国語における平均正答率の最大学校間差は、15ポイントだった。
- ・ 数学の平均正答率で全国を上回ったのは、7校中1校だった。
- ・ 数学における平均正答率の最大学校間差は、30ポイントだった。
- ・ 理科の平均IRTスコアで全国を上回った学校はなかった（同数値が1校）。
- ・ 理科における平均正答率の最大学校間差は、60ポイントだった。

課題2 学校間差の解消

(3) ICT 利活用 ※質問紙結果

ア 小学校

* ()は全国(公立)

*R6より質問項目が変更

質 問 事 項	R5	R6	R7
5年生までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか《ほぼ毎日の割合》	36.7 (28.2)	28.6 (25.3)	44.2 (46.7)
学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つかと思いますか《肯定的意見の割合》	95.8 (95.1)	—	—
学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、PC・タブレットなどのICT機器を、勉強のためにどの程度使っていますか《30分以上の割合》	45.5 (41.1)	—	—

- ・ 授業においてICT機器をほぼ毎日利活用している割合は全国を下回った。

イ 中学校

* ()は全国(公立)

*R6より質問項目が変更

質 問 事 項	R5	R6	R7
1・2年生までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか《ほぼ毎日の割合》	27.0 (28.1)	33.2 (31.0)	49.7 (53.2)
学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか《肯定的意見の割合》	94.7 (93.3)	—	—
学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、PC・タブレットなどのICT機器を、勉強のためにどの程度使っていますか《30分以上の割合》	29.2 (31.2)	—	—

- ・ 授業において、ICT機器をほぼ毎日活用している割合は全国を下回った。

課題3 ICT機器の日常的な利活用

(4) 家庭学習 ※質問紙結果

ア 小学校

* ()は全国平均(公立)

質 問 事 項		R5	R6	R7
学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾等含む）	1時間以上の割合	66.5 (57.1)	64.8 (54.6)	58.2 (54.0)
	2時間以上の割合	13.7 (25.6)	15.2 (23.5)	15.2 (24.9)

- ・ 学校の授業以外に1日当たり1時間以上学習する児童の割合は全国を上回った。2時間以上学習する割合は全国を下回った。

イ 中学校

* ()は全国平均(公立)

質 問 事 項		R5	R6	R7
学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾等含む）	1時間以上の割合	66.0 (65.8)	56.0 (64.3)	53.1 (61.6)
	2時間以上の割合	14.4 (33.7)	14.6 (31.7)	14.7 (30.8)

- ・ 学校の授業以外に1日当たり1時間以上学習する生徒の割合は全国を下回った。2時間以上学習する割合も全国を下回った。

課題4 家庭学習の時間と内容の改善

5 今後の取組

(1) 課題1の解決に向けて

- ・ 学習課題に対して自ら考え、粘り強く取り組む児童生徒の姿を引き出すための働き掛けについて共通理解を図る。(市校長会議における指導、市学力向上研修会、市学力向上情報交換会)
- ・ 児童生徒が集中して学習することができる学級づくりを推進する。(市校長会議における指導、市学級づくり研修会、市学力向上研修会、市学力向上情報交換会)
- ・ 市や各校の学力実態を的確に把握し、それらに基づいた手立てを共有することで日々の授業改善につなげる。(市校長会議における指導、市学力向上研修会、市学力向上情報交換会)
- ・ 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、「村上市の授業づくり」を土台とした授業改善に係る取組を継続する。特に、単元や題材のまとまりを通して育成すべき資質・能力を明確にした上で授業を構想・実践していくことを重視していく。(「村上市の授業づくり」に係る計画訪問、市学力向上研修会、市学力向上情報交換会)

- ・ 基礎的・基本的な知識及び技能の習得とそれに基づいた活用にかかる時間の確保を全校体制で推進する。(市校長会議における指導、市学力向上研修会、市学力向上情報交換会)
- ・ 外国語の授業において、特に英語を介して教師や児童生徒とコミュニケーションをとることができるように学習活動を工夫する。また、小・中学校が連携し、指導の内容や方法の共有を図る。(市校長会議における指導、県教科教育専門監活用事業、市外国語授業づくり研修会)
- ・ 小・中学校ともに、国立教育政策研究所「全国学力・学習状況調査の結果を踏まえた授業アイデア例」及び、県「にいがた学びチャレンジ教材」を活用した授業改善を推進する。(市校長会議における指導、市学力向上研修会、市学力向上情報交換会)

(2) 課題2の解決に向けて

- ・ 市や各校の学力実態を共有し、中学校区の小・中学校の教員で手立てを検討する。(市学力向上研修会、市学力向上情報交換会)
- ・ 中学校区の小・中学校相互の授業参観やそれに基づいた情報交換を推進する。(市校長会議における指導、各校の校内研修)
- ・ 小・中学校の学力向上に係る取組の好事例を共有する。(市校長会議における指導、市学力向上研修会、市学力向上情報交換会)
- ・ 「村上市の授業づくり」に係る計画訪問における授業実践の成果を小・中学校で共有する。(市校長会議における指導、市学力向上研修会、市学力向上情報交換会)

(3) 課題3の解決に向けて

- ・ 教師用・学習者用端末の計画的な入れ替えや不具合への対処等、ICT機器を活用するための環境整備を推進する。(市)
- ・ 教科等の学びを深めるためのツールとしてICT機器を活用できるように、授業での実践例を共有する。(市による各種ICT研修会、ICT推進リーダー情報交換会、市校長会議における指導、「村上市の授業づくり」に係る計画訪問)
- ・ 教員のICT機器の活用スキル向上を図る。(市による各種ICT研修会、ICT支援員による学校訪問、提携業者によるヘルプデスクの設置)

(4) 課題4の解決に向けて

- ・ 小・中学校ともに計画を立てた上で家庭学習に取り組むことを促す。具体的には、終学活等でその日の家庭学習の計画を立てるプランニングタイムを実施したり、中学校区における家庭学習習慣やメディアコントロールの取組を継続したりする。(市校長会議における指導、市学力向上情報交換会)
- ・ 家庭学習についての各校の取組における好事例を共有する。(市校長会議における指導、市学力向上情報交換会)
- ・ 年度末の「家庭学習実施状況調査」において市としての成果と課題を明らかにするとともに、各校において次年度に向けた具体的方策を設定する。それらを市で集約し、各校に共有する。(市校長会議における指導、家庭学習状況調査報告)